

パブリッククラウド+オンプレに対応したハイブリッド型セキュリティポリシーの研究

【オンラインライブ】（4123213）

セキュリティ・ポリシーのサンプルを利用し、例題よりどのようにパブリック・クラウドに対応するか、運用面、規定類の変更事例を紹介し、最終的にセキュリティ・ポリシーが、オンプレ用、パブリック・クラウド用と2つ存在しないように、勘所をつかみます。

開催日時	2023年10月23日(月) 9:00-16:00ライブ配信
カテゴリー	共通業務（契約管理、BCP、コンプライアンス、人的資産管理、人材育成、資産管理）・セキュリティ・システム監査 専門スキル
講師	石橋正彦 氏 (サイバー研究所 所長) ベリングポイント（現PwC）においてセキュリティ監査人/ベンチマークに従事。その後、ガートナーにてセキュリティ、BCP/DRのリサーチ業務に従事。ISOの審査員を経て、国内で最もISOを取得した企業（6規格統合運用）に在籍し、効率の良い 内部監査や従業員教育を実施。JUASでは研究会に12年在籍し、講師を6年に渡り実施。現在ではコンサルファームに所属。
参加費	J U A S 会員/ITC：33,800円 一般：43,000円（1名様あたり 消費税込み、テキスト込み）【受講権利枚数1枚】
会場	オンライン配信（指定会場はありません）
対象	情報システム部門のS E、コンサルタント 職務：営業/開発/管理部門 レベル：システムエンジニア初級 中級
開催形式	講義・個人演習
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。（2時間1ポイント）
ITCA認定時間	6

主な内容

■受講形態

ライブ配信（Zoomミーティング） [【セミナーのオンライン受講について】](#)

■テキスト

開催7日前を目途に発送（お申込時に送付先の入力をお願いします）

※開催7日前から開催前日までにお申込の場合、テキストの送付は開催後になることがあります。ご了承ください。

■開催日までの課題事項

特になし

企業ではDXで「素早い開発、素早い本番リリース」が優先 され、オンプレで培った内部統制/セキュリティ対策が講じら れないシステムが散見されるようになって来ました。
パブリック・クラウドの運用や規定が手探り状態で、情報 システム部門の見解が確定しないまま、規定類の変更ができ るでしょうか。

本セミナーでは、セキュリティ・ポリシーのサンプルを利用 し、例題よりどのようにパブリック・クラウドに対応するか、運用面、規定類の変更事例を紹介します。
最終的にセキュリティ・ポリシーが、オンプレ用、パブリッ ク・クラウド用と2つ存在しないように、勘所をつかみます。

◆主な研修内容：

第1部 はじめに

- ・本セミナー受講の前提条件
 - ・セキュリティ・ポリシーの構造と流れ／体制の定義
 - ・PDCA／アセスメント／内部監査の前提
 - ・サイバー・セキュリティとは
 - ・インシデント・レスポンス、トリアージとは
- （演習1）ランサムウェアを受けた際の、トリアージと復旧パターン

第2部 パブリック・クラウドの前提条件

- ・クラウドの定義 ・パブリック・クラウドの最近の動向
- ・AWS/BOXなどのパブリック・クラウドの一般的な構成
- ・DX案件で本番リリースしたクラウド・システム事例
- ・リリース後に、情報システム部門が気が付いた懸念点（解決策）

第3部

クラウドならではの内部統制/委託先から質問を受けやすい部分

- ・セキュリティ製品／サービスの定義、
- ・IAM（アイデンティティ&アクセス管理）の特権ID管理
- ・内部統制で必要とされる、基本的なアクセス管理

- ・クラウドの認証連携（フェデレーション）、SAML/ADFSの有効利用
- ・一般的な犯罪捜査と特権ID操作ログ管理の有効性

第4部 パブリック・クラウドのツールの有効性と懸念点

- ・アプリケーション・セキュリティ（脆弱性診断やペネトレーション・テスト）の運用の再考
- ・データ・セキュリティ（暗号化とDRM、トークナイゼーションやCASB）の分類、運用の複雑さ
- ・SOCは自前かサービスか、責任範囲をどのように定義して規定に反映させるか

第5部 今後の内部アセスメントとセキュリティ

- ・ポリシーの維持
- ・年間監査計画と予算について